

ホール等文化施設のあり方に関する基本方針（素案）

市民政策コメントにおける意見に対する市の考え方

1. 意見の概要

ホール等文化施設のあり方に関する基本方針（素案）について、市民政策コメントを実施したところ、49件の意見が寄せられました。

このうち、既存施設の縮減を前提とした新たな施設の整備に関して、機能・規模に関する内容を含むものが47件で最も多く、次いで、場所に関する内容を含むものが16件でした。機能・規模に関する内容を含む意見のうち、音響の良い小規模ホールの整備を求めるものが多くありました。また、設置場所に関する内容を含む意見のうち、市役所跡地での整備を求めるものが多くありました。

一方、否定的な意見は4件で、このうち、新たな施設の整備についての反対が1件、1箇所への機能統合についての反対が3件でした。

このほか、新たな施設への期待、演奏家や施設スタッフなどの人材育成、整備における民間資金の活用や市民の関心喚起、施設の利用促進などに関する意見がありました。

2. 市の考え方

(1) 既存施設の縮減を前提とした新たな施設の整備に関して

人口推移（人口の減少・高齢化）、財政運営（施設管理費の抑制）、文化芸術振興（活動の促進、市民の意識高揚、次世代の育成）、まちづくり（市全体の活性化・市外からの集客）などの現状や課題を総合的に考慮したうえで、個々の施設機能を維持・向上（充実）させつつ、施設数を縮減していくことを基本として対応することが必要であると考えています。

(2) 新たな施設の機能・規模・場所に関して

場所に関しては、今後さらに検討を行ったうえで基本方針の中に盛り込みたいと考えます。また、機能・規模に関しては、このたびの基本方針を策定した後、新たな施設の整備に関する具体的な構想・計画を策定する中で、導入する機能やそれぞれの規模などの検討を行いたいと考えています。

これらの検討にあたっては、地域における文化芸術活動の実態やニーズのほかに、既存施設の整備経過や現状・課題、麒麟のまち圏域（鳥取県東部、兵庫県香美町・新温泉町）など広域的な観点での本市の役割、本市がめざすまちの将来像などの要素を総合的に考慮することが必要であると考えています。

(3) その他に関して

既存施設の縮減を前提とした新たな施設の整備により、市民の文化芸術活動の促進、文化芸術に対する市民の意識高揚、国内外で活躍できる優れた芸術家や地域の担い手の育成、他地域からの集客、文化芸術を通じた交流の促進などの効果が期待されることで、市全体の活性化につながるものと考えています。

また、文化施設の基本的な方向性を構成する要素として、民間の資金やノウハウの活用による施設整備・運営や施設利用を促進するための仕組みづくりを掲げているところです。